

# 課題解決型高度医療人材養成プログラム申請書 (看護師・薬剤師・その他メディカルスタッフ養成プログラム)

【様式C-1】

## 事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	東京医科歯科大学 (広島大学、九州歯科大学) 計3大学		
取組	2-(3)-③	申請区分	共同事業
養成する医療人 (取組2-(3)のみ)	歯科衛生士、歯科技工士		
事業名 (全角20字以内)	健康長寿に貢献する実践的チーム医療人育成		

### 1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

#### (1) 事業の全体構想

##### ①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p>	<p>我が国では、今、高齢者が活き活きと生活を享受できる健康長寿を目指すための対策が求められている。医療の高度化に伴い、周術期患者の感染・合併症予防、服薬・化学療法・放射線療法の副作用の軽減、回復期病院における摂食・嚥下リハビリテーション等、高齢者の様々なステージにおいて患者の多様なニーズに応じ、生活の質を向上させることが必要である。そのためには、専門的医療人の連携が必要であり、チーム医療に貢献でき、高い技術力をもつ歯科衛生士および歯科技工士の養成が求められている。そのため、1. 歯科衛生士および歯科技工士教育を受けている学部学生の臨床実習前教育と臨床実習の改善・発展・充実 2. 実習指導者教育プログラムの開発と普及 3. 大学教員と実習先病院および地域の実習施設の実習指導者との連携強化 4. 医歯工連携による先進的歯科医療技術教育の充実、以上を本事業では課題として挙げ、解決型のプログラムを提供する。</p>
<p>〈事業の概要〉(400字以内厳守)</p>	<p>本事業は、歯科衛生士及び歯科技工士を目指す学部学生に、チーム医療が実践できる技術力を修得させることを目的とし連携大学の特色を生かした教育プログラムを実施する。また、実習指導者の指導力・技術力を向上させるプログラムを構築する。事業概要を以下に示す。1. 学部学生教育プログラムとして、大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム、回復期病棟での多職種連携実践プログラム、デイサービス施設・附属病院におけるチーム医療実践プログラム、歯科技工士による手術支援プログラムを実施する。2. 指導者養成プログラムとして、周術期患者の口腔機能・衛生(口腔ケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム(履修証明)を提供する。3. 連携大学のプログラムを共有するため教員の相互派遣を行う。4. 大学教員と実習先の病院・施設の実習指導者との連携強化のため、合同連絡会・多職種合同症例検討会を開催する。</p>

##### ②大学・学部等の教育理念・使命(ミッション)・人材養成目的との関係

東京医科歯科大学口腔保健学科の使命には口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成、広島大学歯学部口腔健康科学科は歯科衛生士・歯科技工士の人材育成プログラムの発信を、九州歯科大学口腔保健学科は、幅広いチーム医療が行える知識と技術を持ち、探求心にあふれる人材を育成することが教育目標であり、各大学の使命等は本事業の各プログラムの人材養成の目的と深く関連し、合致している。

### ③新規性・独創性

本事業は、歯科衛生士及び歯科技工士を目指す学部学生を対象とする点、従来の見学中心のチーム医療の臨床実習から実践を目的とした教育プログラムに発展させる点で新規性・独創性がある。健康長寿に貢献する人材を養成するためには、医科と歯科が連携し、高齢者の様々なステージに対応できるプログラムが必要である。本事業の各連携大学が地域性・特性を生かし、かつ補完しあうことで学部学生用に、大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム、回復期病棟での多職種連携実践プログラム、デイサービス施設・附属病院におけるチーム医療実践プログラム、歯科技工士による手術支援プログラムを提供する点は多様なニーズに対応できる人材養成プログラムとして独創性がある。また、実習指導者の指導力・技術力を向上させる指導者養成プログラムとして、周術期患者の口腔機能・衛生（口腔ケア）管理におけるチーム医療指導者養成プログラムで履修証明を提供する点、連携大学のプログラムを共有するため教員の相互派遣を行う点、大学教員と実習先の病院・施設の実習指導者との連携強化のため、合同連絡会・多職種合同症例検討会を開催する点など実践的チーム医療人育成として独創的なプログラムであると考え

### ④達成目標・評価指標

#### 【達成目標】

チーム医療を実践できる高い技術力をもつ歯科衛生士、歯科技工士を養成する。連携大学の全ての学生がチーム医療および多職種連携のための基礎的知識・技術を修得し、臨床実習においてチーム医療・多職種連携を実践する。連携大学の70%以上の教員を期間中に相互派遣し、プログラムの相互支援、研修を行う。指導者養成プログラムを構築し、10名以上の履修修了者を輩出する。

#### 【評価指標】

各大学は、予算執行状況・教員派遣状況、対象学生・指導者の達成度、プログラムに関する意見等の収集などを自己点検評価の指標とする。事業全体の内部評価は、評価委員会により予算施行状況・自己点検の総合評価を行う。外部委員による評価はプログラムの実施状況とその効果について行う。

### ⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画,働きやすい職場環境,勤務継続・復帰支援等も含む。)

我が国の歯科衛生士および歯科技工士の離職率が高い要因の一つは、個人の歯科医院や技工所で、歯科医師の指示のもとに歯科診療・治療・技工に携わっている者が多いことである。歯科衛生士および歯科技工士が病院や施設で、歯科医師だけでなく医師、看護師、その他の医療スタッフと連携し、チーム医療を実践できる場が広がれば、専門技術を発揮し職種に誇りを持って、離職率が減少し、勤務継続が推進されることが考えられる。また、本プログラムで提供する専門的技術を修得した場合、離職後の復職支援にも有効であると考え

## (2) 教育プログラム・コース → 【様式C-2】

## 2. 事業の実現可能性

### (1) 事業の運営体制

#### ①事業の実施体制

- ・本事業の事務局は、申請担当大学である東京医科歯科大学が担当する。
- ・3大学にそれぞれ「事業実施委員会」を設置する。各大学の本事業における責任者、担当者を構成員として、各大学における本事業の取組を推進する（各プログラム構築等）。
- ・東京医科歯科大学、広島大学及び九州歯科大学の3大学が合同で「運営委員会」を組織し、本事業の企画運営及び意思決定を行う。構成員は3大学に設置した「事業実施委員会」のメンバーとする。

## ②事業の評価体制

- ・3大学にそれぞれ設置する「事業実施委員会」において、毎年事業運営上の評価、達成度の自己点検評価を実施する。
- ・「運営委員会」の下に「内部評価委員会」を設置し、各大学における評価結果を踏まえて、毎年全体的な内部評価を行う。評価結果は「事業実施委員会」及び「運営委員会」にフィードバックされ、次年度以降のプログラム等がブラッシュアップされる。
- ・平成28年度には外部評価委員による外部評価（中間評価）を実施する。
- ・平成30年度には外部評価委員による外部評価（最終評価）を実施する。

## ③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

- ・3大学は前述した「運営委員会」によって企画運営及び意思決定を行っていく。
  - ・各大学の教職員を講師として相互派遣し、各大学のプログラムの一端を担う。
  - ・「運営委員会」によって企画されるFD研修によって各大学の教員の知識・技能の向上に努める。
  - ・本事業を推進する上で、下記の機関と連携し、各プログラムを構築する。また、合同連絡会・多職種合同症例検討会を開催し、大学側と連携機関との交流を推進する。
- <連携機関>  
東京医科歯科大学歯学部附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、広島大学病院、通所介護事業所「光清苑」、医療法人共和会「小倉リハビリテーション病院」
- ・上記の連携機関については、既に各大学との独自の連携実績が担保されている。
  - ・なお、前述した「事業実施委員会」及び「運営委員会」に連携機関の担当者が適宜参加することで、連携機関の意見を積極的に取り入れたプログラム設計が可能となる。

## (2) 事業の継続・普及に関する構想等

### ①事業の継続に関する構想

東京医科歯科大学、広島大学及び九州歯科大学の3大学は、地域特性や特色は異なっているが、従来からチーム医療、多職種連携に関する教育に積極的であり、今回の事業により、学生、教員及び実習指導者等に大きな成果が得られることから、当該事業の支援期間終了後も各大学の負担で事業を継続するものとする。

### ②事業の普及に関する計画

普及に関しては、口腔機能管理シミュレータを用いた高齢者の口腔ケア実習や食事支援演習等の実習前教育はDVD・e-learning・実習書などの教材を作成し、他大学や歯科衛生士・歯科技工士養成校へ普及できるものを蓄積していく。また、臨床実践プログラムも他大学や養成校が実践できるような具体的な内容で実習書等を作成し、実習指導に関する研修を他機関や多職種の教職員が参加できるようにし、普及に努める。

日本歯科医学教育学会、日本医学教育学会などの医歯教育系学会に本事業内容を紹介するために、ポスターなどの演題発表を行うとともに教育プログラム内容に関連した専門学会にも積極的に参加して、情報提供と意見交換を行う。

また、ホームページを立ち上げて、事業内容を社会へ周知する。

## (3) 事業実施計画

26年度	① 8月～3月	「事業実施委員会」、「運営委員会」の実施 (来年度から開始するプログラムに向けた準備)
	② 10～11月	教員相互派遣による各大学のカリキュラム調査
	③ 12月～2月	連携大学・連携病院・施設との合同連絡会・多職種合同症例検討会実施
	④ 12月～2月	FD研修の実施
	⑤ 2月	キックオフイベントの開催

27年度	① 4月～3月 「事業実施委員会」、 「運営委員会」 の実施 ② 4月～2月 各プログラムの実施 ③ 4月～3月 連携大学・連携病院・施設との合同連絡会・多職種合同症例検討会実施 ④ 4月～3月 FD研修の実施 ⑤ 2月 「内部評価委員会」 の実施
28年度	① 4月～3月 「事業実施委員会」、 「運営委員会」 の実施 ② 4月～2月 各プログラム実施 ③ 4月～3月 連携大学・連携病院・施設との合同連絡会・多職種合同症例検討会実施 ④ 8月～9月 サマープログラム開催：学生・実習指導者の希望者対象 ⑤ 4月～3月 FD研修の実施 ⑥ 2月 「内部評価委員会」 の実施 ⑦ 2月 外部評価（中間評価） の実施 ⑧ 3月 公開シンポジウム開催、成果発表（中間報告）、報告書作成
29年度	① 4月～3月 「事業実施委員会」、 「運営委員会」 の実施 ② 4月～2月 各プログラム実施 ③ 4月～3月 連携大学・連携病院・施設との合同連絡会・多職種合同症例検討会実施 ④ 8月～9月 サマープログラム開催：学生・実習指導者の希望者対象 ⑤ 4月～3月 FD研修の実施 ⑥ 2月 「内部評価委員会」 の実施
30年度	① 4月～3月 「事業実施委員会」、 「運営委員会」 の実施 ② 4月～2月 各プログラム実施 ③ 4月～3月 連携大学・連携病院・施設との合同連絡会・多職種合同症例検討会実施 ④ 8月～9月 サマープログラム開催：学生・実習指導者の希望者対象 ⑤ 4月～3月 FD研修の実施 ⑥ 2月 「内部評価委員会」 の実施 ⑦ 2月 外部評価（最終評価） の実施 ⑧ 3月 公開シンポジウム開催、成果発表（最終報告）、報告書作成
31年度 [財政支援 終了後]	① 4月～3月 「事業実施委員会」、 「運営委員会」 の実施 ② 4月～2月 各プログラムの実施 ③ 4月～3月 連携大学・連携病院・施設との合同連絡会・多職種合同症例検討会実施 ④ 4月～3月 FD研修の実施 ⑤ 2月 「内部評価委員会」 の実施

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科						
病院名・その他の連携先の名称等	東京医科歯科大学歯学部附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム						
教育プログラム・コースの目的	口腔保健学科学生（歯科衛生士教育、3年・4年）を対象とし、チーム医療の基盤づくりと医学部及び歯学部附属病院における医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士及び歯科技工士等の指導者の下、多職種と連携し、病院患者の口腔ケアを実践できる技術力を修得することを目的とする。						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士及び歯科技工士等とチーム医療が実践できる医学、歯学及び看護学の基礎知識を備え、多職種と意見交換ができる人材</li> <li>・口腔保健及び口腔ケアの専門的知識及び技術を修得し、専門的支援及び助言ができる人材</li> <li>・多職種と連携し、病院の患者に口腔ケアを実践できる人材</li> </ul>						
教育プログラム・コースに関連する今までの実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔機能管理シミュレータによる口腔機能管理に関する実習（デモンストレーション）</li> <li>・『包括的歯科医療の実際』（3年の必修科目）において病院患者・要介護高齢者を想定した口腔ケアの相互実習、老人福祉及び保健施設における口腔ケアの実際を見学</li> <li>・臨床及び臨地実習（4年）において医学部附属病院の看護の実際、入院患者への口腔ケアの見学、歯学部附属病院、学外病院及び地域の施設における歯科医療及び口腔介護の臨地実習</li> </ul>						
教育プログラム・コースの内容・実施方法・実施体制	<p><b>【実施体制】</b>        下記のカリキュラム内容を発展的・実践的に行うために、口腔保健学科教育委員会を中心として、科目責任者、学科教員全体、医歯学融合教育スタッフ、附属病院の医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士及び歯科技工士等の実習指導者や病院スタッフの協力体制を作る。</p> <p><b>【内容＜必修科目＞】</b></p> <p>①チーム医療が実践できる医学、看護学及び歯学の基礎知識を備え、多職種と意見交換ができる人材養成のため、『医学一般』（60h）、看護学関連（10h）の講義及び演習等をE-learningシステムやDVD教材等を活用して行う。</p> <p>②口腔保健及び口腔ケアの専門的知識及び技術を修得し、専門的支援及び助言ができる人材養成のため『包括的歯科医療の実際』（30h）では口腔機能管理シミュレータの実技実習、口腔ケアに関する相互実習、E-learningシステムやDVD教材の事前・事後学習、附属病院におけるチーム医療・専門的口腔ケアの見学後全員に実践体験をさせ、より実践的内容に発展させる。</p> <p>③多職種と連携し、病院の患者に口腔ケアを実践できる人材養成のため、附属病院における臨床実習で入院患者の口腔ケアを実践する回数を増やし、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士及び歯科技工士等が行うケースカンファレンスに参加し、実際のケースに関する多職種連携を学ぶ。</p> <p><b>【修了要件】</b>        上記内容の必須科目を履修し、筆記、実技、面接試験及び課題提出等を行い、上記内容が修得されたと認められた場合に修了とする。</p>						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	学部生 (3・4年)	0	28	56	56	56	196
	計	0	28	56	56	56	196

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科						
病院名・その他の連携先の名称等	東京医科歯科大学歯学部附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	周術期患者の口腔機能・衛生（口腔ケア）管理におけるチーム医療指導者養成プログラム（履修証明プログラム）						
教育プログラム・コースの目的	周術期患者の感染・合併症予防・副作用の軽減等に有効な口腔機能・衛生（口腔ケア）管理ができる技術力を歯科衛生士及び歯科技工士に修得させ、医師・歯科医師・看護師・言語聴覚士、管理栄養士等とのチーム医療を推進できる指導者を養成することを目的とする。						
養成すべき人材像	本プログラムの対象者は主として歯科衛生士及び歯科技工士であるが、病院等で臨床実習を指導する看護師、言語聴覚士、管理栄養士等の医療人も対象とする。 ・周術期患者の口腔衛生管理（口腔ケア）を歯科衛生士がチーム医療、多職種連携で実践できるよう指導する高い知識・技術力・指導力を持った指導者を養成する。 ・周術期患者の口腔機能管理を歯科技工士がチーム医療、多職種連携で支援できるよう指導する高い知識・技術力・指導力を持った指導者を養成する。						
教育プログラム・コースに関連する今までの実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯学部附属病院の歯科衛生士を対象に口腔保健学科授業科目『医学一般』聴講（ウェブクラス）、次世代がん治療推進専門家プランの講習会（医学部附属病院）へ参加実績。</li> <li>・歯科技工士が歯学部附属病院の歯科医療技術支援、介護老人保健施設において歯科医師の指導の下、義歯等に関する口腔機能管理支援を行っている。</li> </ul>						
教育プログラム・コースの内容・実施方法・実施体制	<p>【実施体制】口腔保健学科教育委員会を中心として、医学部附属病院並びに歯学部附属病院の臨床実習指導者・病院スタッフ及び医歯学融合教育等の教員が協力し、研修プログラム作成、実技研修を行う。実践経験豊富な連携大学・連携病院教職員や連携外の有識者等の協力を依頼する。</p> <p>【内容と実施方法】（原則として2年間）  ○周術期患者の種々の病態、症状、感染リスク、合併症や服用薬の副作用等に関する知識の習得のため、口腔保健学科授業科目『医学一般』受講（60h、DVD・e-Learning可）  ○がん治療等に関する講習会受講（20h以上、DVD・e-Learning可）  ○口腔衛生（口腔ケア）管理ができるように学生（歯科衛生士）を指導できる知識・技術力の修得のため、実践経験が豊富で高い知識・技術力を持った連携大学・連携病院教職員や連携外の有識者等による講演（6h以上）、実技研修（12h以上）を行う。  ○口腔機能管理を支援できるように学生（歯科衛生士、歯科技工士）を指導できる知識・技術力の修得のため、実践経験が豊富で高い知識・技術力を持った連携大学・連携病院教職員や連携外の歯科医師・有識者等による講演（6h以上）、実技研修（12h以上）を行う。  ○医学部附属病院および歯学部附属病院でのチーム医療の臨床見学ならび症例検討会等に参加（10h以上）</p> <p>【履修証明要件】上記の内容を120時間以上履修し、筆記・実技・面接試験または課題提出等を行い、上記内容が修得されたと認められた場合に履修を証明する。</p>						
受入開始時期	平成27年4月						
	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計

受入目標人数	実習指導者	0	2	5	6	6	19
	計	0	2	5	6	6	19

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学歯学部口腔健康科学科						
病院名・その他の連携先の名称等	広島大学病院、通所介護事業所 光清苑						
教育プログラム・コース名	デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム						
教育プログラム・コースの目的	デイサービス施設と大学病院における、口腔機能の低下した高齢者や患者への機能向上訓練と食支援を多職種と連携して行うチーム医療を、口腔健康科学科学生（歯科衛生士教育3年）が臨床前教育として学ぶことを目的とする。						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種（医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士等）と連携して、口腔機能の低下した高齢者や患者への口腔機能向上訓練を実践できる歯科衛生士。</li> <li>・多職種（医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、管理栄養士等）と連携して、口腔機能の低下した高齢者や患者への食支援を実践できる歯科衛生士。</li> </ul>						
教育プログラム・コースに関連する今までの実績	口腔機能の低下した高齢者や患者の機能向上を目的とした「口腔リハビリテーション学実習」を、多職種（歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、看護師）と行ってきた。また、「デイサービス施設における口腔機能向上プログラム実習」は、介護施設の職員（ケアマネジャー、保健師、社会福祉士、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、歯科衛生士）と、「栄養指導学演習」は大学病院の管理栄養士と実習を行ってきた。						
教育プログラム・コースの内容・実施方法・実施体制	<p><b>【実施体制】</b>  科目責任者が中心となり、これまで本プログラムと関連する実習を行ってきた歯科医師、看護師、言語聴覚士と協力して実施する。但し、本プログラムでは、広島大学病院所属の管理栄養士に代えて、他大学管理栄養士課程の教員に協力を依頼する。なお、本プログラム案についての事前検討には、口腔健康科学科長を始めとして、口腔健康科学科の教員全員が参加する。</p> <p><b>【内容＜必修科目＞】</b>  ①最初に歯科医師が、高齢者や広島大学病院受診患者における口腔機能低下とそのリハビリテーションについて概説（6h）した後に、広島大学病院における業務分担に従い、歯科衛生士、言語聴覚士、看護師が分担して、口腔機能向上のための評価法と訓練法について講義・実習（24h）する。  ②口腔機能低下者の食支援については、歯科衛生士が概説（4h）した後に、管理栄養士と歯科衛生士が協同して、口腔機能補助食品の作成法について講義と実習（11h）で指導する。  ③上記で学んだ内容について、feedbackする（1h）。</p> <p><b>【修了要件】</b>  上記の内容を履修した後に、筆記・実技・口頭試験を行い、上記内容が習得されたと認められた場合に修了とする。</p>						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	学部生	0	20	20	20	20	80
	計	0	20	20	20	20	80

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学歯学部口腔健康科学科						
病院名・その他の連携先の名称等	広島大学病院						
教育プログラム・コース名	歯科技工士による手術支援プログラム						
教育プログラム・コースの目的	医用画像から解剖学的形態の三次元再構築と手術支援模型製作を体験し、患者に安心安全な医療を提供するために必要な、医用画像や3Dプリンティング技術に関する知識、技術、態度を習得することを目的とする。						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CTやMRIなどの医用画像に示される解剖学的特徴を理解し、医用画像から解剖学的三次元モデルを再構築することで、患者の口腔・顎顔面形態を正確に再現した手術支援模型を製作できる人材</li> <li>・工学機器に関する専門的知識及び技術を習得し、立体的に製作した手術支援模型を介した医療従事者間での症例の共通理解・コミュニケーションを実践できる人材</li> </ul>						
教育プログラム・コースに関連する今までの実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『CADシステム工学』（1年）において、歯科補綴物や人工骨の製作など歯科や医科でも使用されている工業の分野で開発されたCAD/CAMシステムの原理を学び、『CADシステム工学実習』（3年）において、計測装置や3Dモデリングに関する基本的技能を習得。</li> <li>・卒業研究（4年）において、少人数学生が医用画像からの三次元再構築や3Dプリンティング技術等の医用画像工学を応用した研究を実施。</li> <li>・臨床実習（4年）において、広島大学病院口腔外科での臨床ケースに対する手術支援模型の製作。</li> </ul>						
教育プログラム・コースの内容・実施方法・実施体制	<p>【実施体制】 下記のカリキュラム内容を発展的・実践的に行うために、学科教員全体、広島大学病院の歯科医師、歯科衛生士及び歯科技工士等の実習指導者や病院スタッフの協力体制を作る。</p> <p>【内容＜必修科目＞】 ①CTやMRIなどの医用画像に示される解剖学的特徴を理解し、医用画像から解剖学的三次元モデルを再構築することで、患者の口腔・顎顔面形態を正確に再現した手術支援模型を製作できる人材養成のため、医用画像工学、CT・MRI医用画像の解剖学的特徴、3Dプリンターの原理と構造関連（9h）の講義を行う。また、基本的技術習得のため、解剖学的形態の三次元再構築、歯列模型の三次元計測、顎骨モデルと歯列モデルの合成、3Dプリンターを用いた手術支援模型の積層造形等（12h）の演習を行う。 ②工学機器に関する専門的知識及び技術を習得し、立体的に製作した手術支援模型を介した医療従事者間での症例の共通理解・コミュニケーションを実践できる人材養成のため、コンピュータ上での術前シミュレーション、手術支援模型を用いたフィジカルシミュレーション（6h）を通じてカンファレンスを行い、実際のケースに関する実践的アプローチを行う。</p> <p>【修了要件】 上記内容の必須科目を履修し、筆記、実技、面接試験及び課題提出等を行い、上記内容が修得されたと認められた場合に修了とする。</p>						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	学部生	0	20	20	20	20	80
	計	0	20	20	20	20	80

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州歯科大学歯学部口腔保健学科
病院名・その他の連携先の名称等	医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院
教育プログラム・コース名	回復期病棟での多職種連携実践プログラム
教育プログラム・コースの目的	口腔保健学科学生（歯科衛生士教育、3年・4年）を対象とし、回復期病棟でのチーム医療に参画できる基盤づくりと、医師、歯科医師、看護師、リハビリテーション職種、歯科衛生士の指導者の下、回復期病棟で口腔ケアおよび摂食嚥下支援にかかる実践力を修得することを目的とする。
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士及び歯科衛生士等とチーム医療が実践できる医学、歯学、看護学及びリハビリテーション学の基礎知識を備え、多職種と意見交換ができる人材</li> <li>・高齢社会で需要の増加する回復期病棟における口腔ケア及び摂食嚥下支援の専門的知識及び技術を修得し、専門的支援及び助言ができる人材</li> <li>・多職種と連携し、回復期病棟の患者に口腔ケア及び摂食嚥下支援を実践できる人材</li> </ul>
教育プログラム・コースに関連する今までの実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『チーム口腔保健学』（3年必修科目）において多職種の役割を学習、『基礎介護学』『基礎看護学』（3年必修科目）で介護、看護の基礎的知識を学習、『摂食嚥下リハビリテーション実習』（3年必修科目）で摂食嚥下支援の基礎的技術を習得、『臨床栄養学』（3年選択科目）で内科医、管理栄養士によるNSTにかかる基礎的知識を教授している。</li> <li>・『応用臨床実習』（3年必修科目）で八幡東病院での訪問診療、2か所の特別養護老人福祉施設での実習、特別支援学校での口腔保健指導、小倉リハビリテーション病院の歯科衛生士業務に係る臨地実習を行っている。</li> </ul>
教育プログラム・コースの内容・実施方法・実施体制	<p><b>【実施体制】</b>        下記のカリキュラム内容を発展的・実践的に行うために、九州歯科大学側は、口腔保健学科教務部会を中心として、科目責任者、学科教員全体及び実習指導者（付属病院の歯科衛生士）、小倉リハビリテーション病院スタッフ（医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、リハビリテーション職種）の連携体制を作る。</p> <p><b>【内容＜必修科目＞】</b>        ①チーム医療が実践できる医学、看護学及び歯学の基礎知識を備え、多職種と意見交換ができる人材養成のため、『チーム口腔保健学』（30h）、『基礎看護学』（8h）、の講義及び演習等をE-learningシステムやDVD教材等を活用して行う。また、チーム医療の基盤づくりとして小倉リハビリテーション病院職員を講師として、実際の症例に基づいた少人数グループでPBL等も取り入れた内容を検討する。        ②回復期病棟での口腔ケア・摂食嚥下支援の専門的知識及び技術を修得し、専門的支援及び助言ができる基盤づくりのため『口腔機能リハビリテーション論』（30h）でE-learningシステムやDVD教材の事前・事後学習を通じて回復期病棟患者の身体的特性や医学的課題について学ぶ。『摂食嚥下リハビリテーション実習』（40h）では口腔機能管理シミュレータの実技実習、摂食嚥下支援に関する他学科学生を含めた相互実習し、臨地前の知識・技術を涵養する。        ③多職種と連携し、回復期患者に口腔ケア・摂食嚥下支援を実践できる人材養成のため、小倉リハビリテーション病院でのより実践的な臨床実習（5日間）を行えるよう、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士及びリハビリテーション関連職種等が行うケースカンファレンスに参加し、実際のケースに関する多職種連携を学ぶ。</p> <p><b>【修了要件】</b>        上記内容の必須科目を履修し、筆記、実技、面接試験及び課題提出等を行い、上記内容が修得されたと認められた場合に修了とする。</p>
受入開始時期	平成27年4月

受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	学部生	0	25	25	25	25	100
	計	0	25	25	25	25	100

# 健康長寿に貢献する実践的チーム医療人育成

東京医科歯科大学・広島大学・九州歯科大学連携

各大学間・実習先機関と連携し、各大学の特色を生かしたチーム医療実践プログラム、チーム医療指導者養成プログラムを実施することにより、多職種連携を推進する。



## 広島大学 歯学部 口腔健康科学科

(連携機関: 通所介護事業所 光清苑、広島大学病院 (広島市))

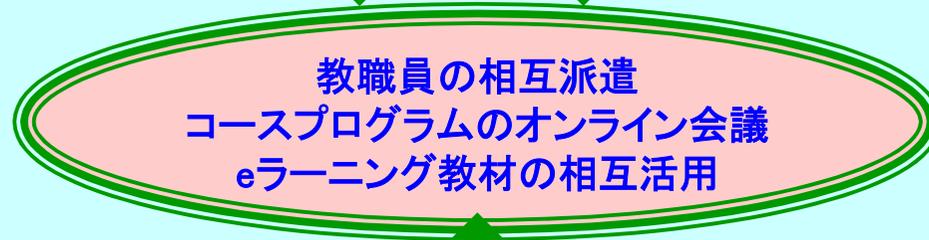
- デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム
- 歯科技工士による手術支援プログラム (広島大学病院)
  - ・デイサービス施設における口腔機能向上訓練の実践
  - ・口腔リハビリテーション学実習
  - ・歯科技工士による手術支援実践プログラム



## 九州歯科大学 歯学部 口腔保健学科

(連携機関: 小倉リハビリテーション病院(北九州市))

- 回復期病棟での多職種連携実践プログラム
  - ・リハビリテーション病院での摂食機能訓練の実践
  - ・回復期病棟での栄養管理プログラムの実践
  - ・多職種によるカンファレンス



高齢者の様々なステージで  
連携可能な人材

- ・幅広いチーム医療が行える知識と技術を持ち、探求心にあふれる人材の育成
- ・教職員の相互派遣により、連携教職員の指導力の向上



## 東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科

(連携機関: 医学部・歯学部附属病院(東京))

- 大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム
  - ・口腔機能管理シュミレーターによる実習
  - ・口腔ケア相互実習
  - ・大学附属病院における臨床実習での口腔ケアの実践

周術期患者の口腔機能・衛生(口腔ケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム(履修証明プログラム)

- ・周術期患者の種々の病態、症状、感染リスク、合併症や服用薬の副作用等に関する知識の習得
- ・口腔衛生(口腔ケア)管理、口腔機能管理に関し、連携大学・連携病院教職員や有識者等による講演、実技演習



チーム医療に貢献し、高い指導能力を持つ  
メディカルスタッフを養成する。